

UNI-PEX

取扱説明書

FXシリーズPAアンプ

定格出力 120W / FM・AMラジオ付

FX-120R

定格出力 60W / FM・AMラジオ付

FX-60R

定格出力 30W / FM・AMラジオ付

FX-30R

定格出力 120W

FX-120

定格出力 60W

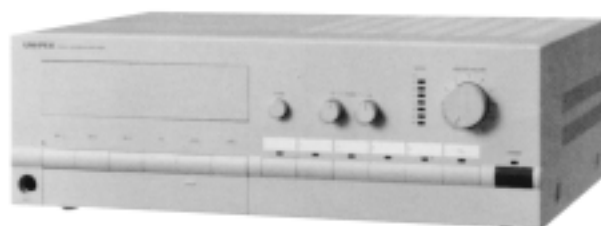
FX-60

定格出力 30W

FX-30



FM・AMラジオ付
FX-120R/FX-60R/FX-30R



FX-120/FX-60/FX-30

このたびは、FXシリーズ PAアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになったあとは、必ず保存してください。

目次

安全上のご注意	2、3
各部の名称と説明(前面)	4
各部の名称と説明(後面)	5
使い方	6
出力レベルメーター	6
音質調節	6
オートマチックフェーダ回路について	7
オートマチックフェーダ回路の調節のしかた	7
ラジオ受信のしかた	7
放送局をメモリーするには	8
アンテナの接続方法	9
エレクトロチャイムユニットEC-24(別売)の取り付け方法	10
スピーカーの接続方法	10
調整及び設定変更のしかた	13
非常制御端子について	14
リモートマイクRMM-101との接続のしかた	15
5回線リモートマイクRMM-105、及びリレーボックスBR-5との接続のしかた	15
10回線スイッチボックスSB-100との接続のしかた	16
ノイズ対策について	16
定格	17
外觀寸法図	17
連絡先のご案内	18

安全上のご注意

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がある、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



プラグを
コンセント
から抜け

分解 / 改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない / 濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐ、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。



電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、接続コードや電源プラグには触れない

感電の原因となります。



ACアウトレットに接続する機器の消費電力の合計は、機器に表示しているW数またはA数を超えない。

火災の原因となります。音響機器以外は接続しないでください。



壁から4cm以上の間隔をおいて設置する

内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。





注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

<p>工事は工事店に依頼する 工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。</p>	
<p>異常に温度が高くなる場所に放置しない 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p>	
<p>長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く 火災の原因となることがあります。</p>	  <p>プラグをコンセントから抜く</p>
<p>お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く 感電の原因となることがあります。</p>	 <p>プラグをコンセントから抜く</p>
<p>電源を入れる前には音量を最小にする 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。</p>	
<p>電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p>	
<p>長時間音が歪んだ状態で使わない スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。</p>	
<p>濡れた手で、電源コードを抜き差ししない 感電の原因となります。</p>	
<p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>	
<p>電源プラグは根元まで確実に差し込む 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。</p>	
<p>移動するときは、コード類を傷つけない 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。</p>	 <p>プラグをコンセントから抜く</p>
<p>この機器に乗ったり腰掛けたりしない 特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。</p>	
<p>オーディオ機器、外部スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。</p>	
<p>1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。</p>	

設置・使用上のご注意

入力線と出力線は近づけずと発振する恐れがありますので、できるだけ離して配線してください。

直射日光の差し込む場所、温度の高くなる所には設置しないでください。また、湿度・ほこり及び振動の多い場所に設置すると故障の原因となることがあります。

本機を雑音発生の原因になる機器の近くには設置しないでください。

高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

各部の名称と説明(前面)

エレクトロチャイムEC-24(別売)用押しボタン

ラジオチューナ部

P. 6 ラジオ受信のしかたの項をご覧ください。
(FX-120R、FX-60R、FX-30Rのみ)

入力選択スイッチ

(MIC1, 2, 3, CD, LINE1, 2)

放送したい入力のスイッチを押してください。
押されている入力が放送されます。

低音音質調節つまみ

右回りで低音が増強され、左回りで低音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

高音音質調節つまみ

右回りで高音が増強され、左回りで高音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

出力レベルメータ

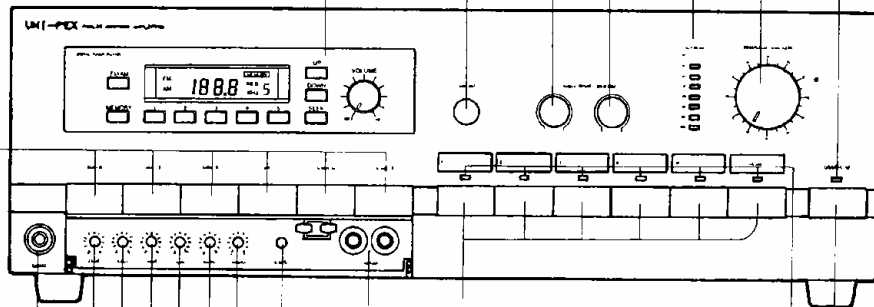
出力レベルを表示します。連続して+3dBのLED(赤)が点灯しないように音量を調節してください。

主音量調節つまみ

各々の音量調節つまみで調節した後、全体の音量を調節するつまみです。

電源表示灯

電源が入ると赤に点灯します。



MIC1入力ジャック

(-72dBV 600Ω 電子平衡)

MIC1音量調節つまみ

MIC2音量調節つまみ

MIC3音量調節つまみ

CD音量調節つまみ

LINE1音量調節つまみ

LINE2音量調節つまみ

オートマチックフェーダ調節つまみ

オートマチックフェーダの減衰量を調節します。

LINE1入力ジャック

(-22dBV 10kΩ 不平衡)

このジャックを使用するときは後面のライン1入力ジャックは切り離されます。(前面のジャックを1個だけ使用している場合はミキシングとなります。)

電源スイッチ

このスイッチを押すと電源が入ります。本機はスピーカ保護のため、電源を入れても約1秒間は動作しません。

スピーカ回線選択表示灯

スピーカ回線選択スイッチを押すと、それぞれに対応する表示灯が点灯します。一斉時には一斉表示灯と1~5の表示灯が点灯します。外部からの起動時にも同様に表示します。

スピーカ回線選択スイッチ

(1, 2, 3, 4, 5, 一斉)

系統別に放送したいときは、1~5のスイッチを押してください。押した系統に放送されます。全系統に放送したいときは、一斉スイッチを押してください。全スピーカより放送されます。

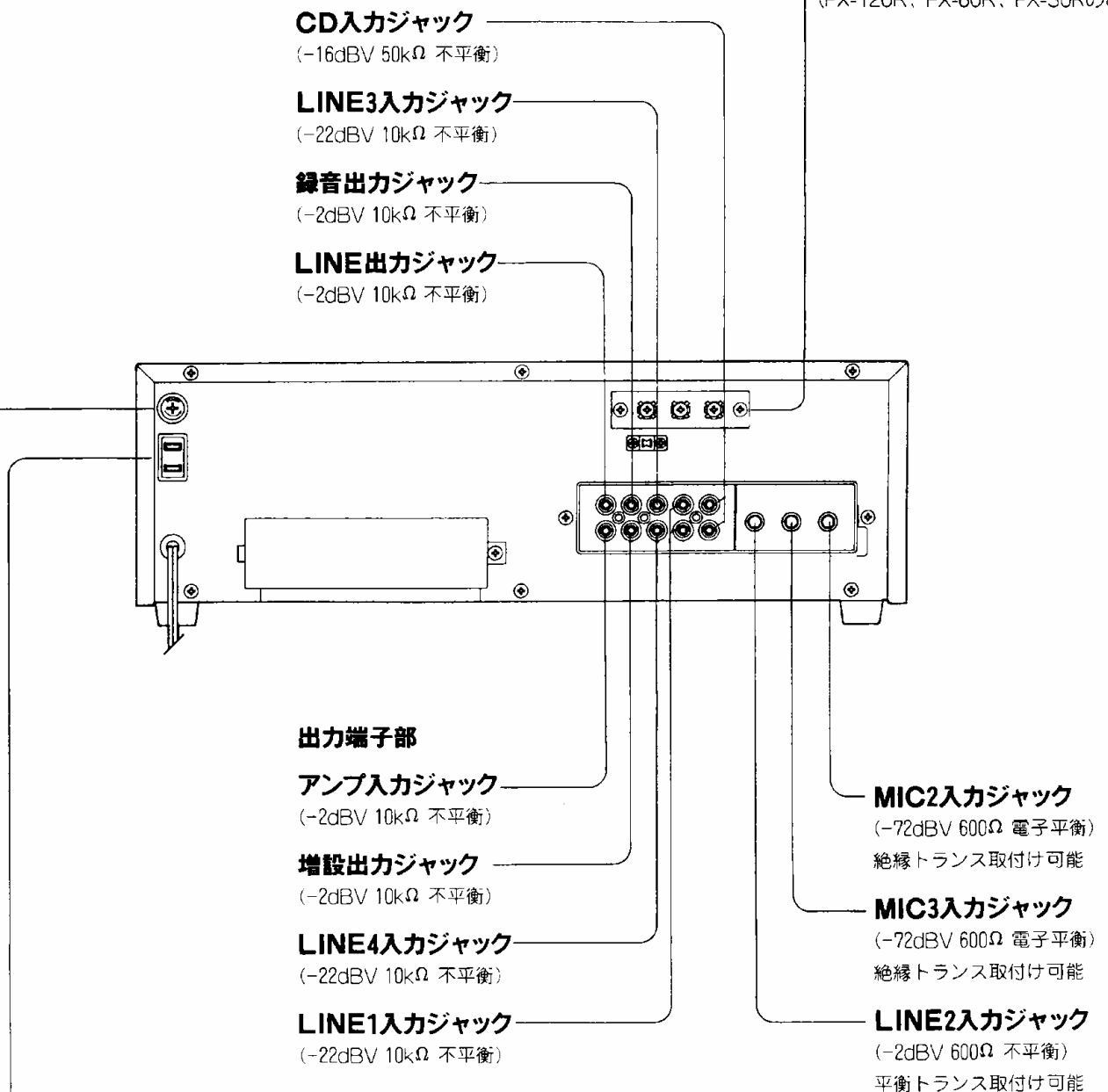
各部の名称と説明(後面)

外部電源保護ヒューズ

出力端子部から取り出せる外部電源回路の保護用ヒューズです。ACプラグが差し込まれているときに出力されます。
ヒューズ交換の際は指定容量(0.1A)のものを使用してください。

アンテナ接続端子

P. 8 アンテナの接続方法の項をご覧ください。
(FX-120R、FX-60R、FX-30Rのみ)



ACサービスコンセント

(電源スイッチ非連動)
AC100V最大100W以下の音響機器の接続にご利用ください。
(音響機器以外の機器を接続しないでください。)

使い方

1. 電源スイッチを入れる前に。

- 各音量調節つまみは左いっぱいに戻し、音質調節つまみは、中央クリック位置にセットしてください。各入力選択スイッチは「切」にしてください。

2. 電源スイッチを「入」にしてください。

- 電源表示灯が点灯します。

3. スピーカ回線選択スイッチを「入」にします。

- 一斉に放送する時は「一斉」スイッチを押してください。系統別に放送するときは「1」～「5」の放送したい系統を押してください。
- スピーカ回線選択表示灯が点灯し、選択した系統が確認できます。

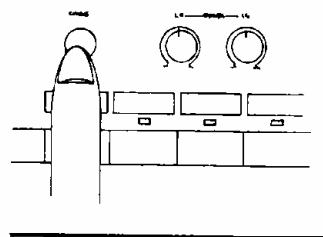
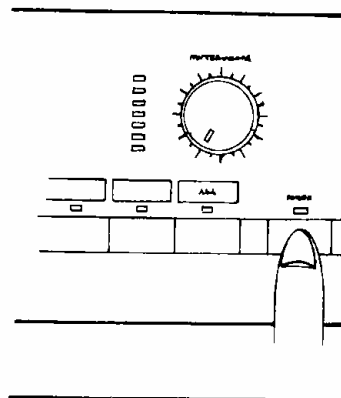
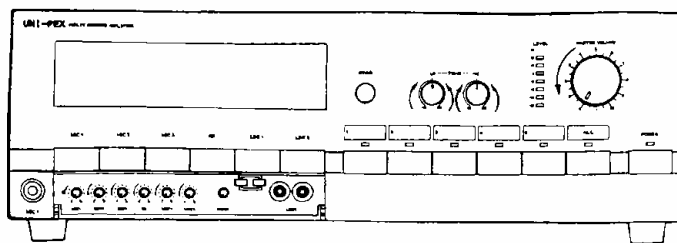
4. エレクトロチャイムユニット(別売)を組込んでご使用の場合。

- チャイムスイッチを押すとチャイム音が放送されます。放送前の予告音として使用できます。

5. 各入力選択スイッチを「入」にし、各音量調節つまみを回して各入力の音量を調節してください。

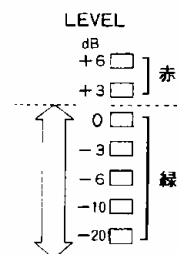
- ライン3、4の音量は接続する機器側で調節してください。

6. 主音量調節つまみで全体の音量を調節してください。



出力レベルメータの見方

放送の出力に応じて出力レベルメータが点灯します。連続して+3dBのLED(赤)が点灯しないように音量を調節してください。

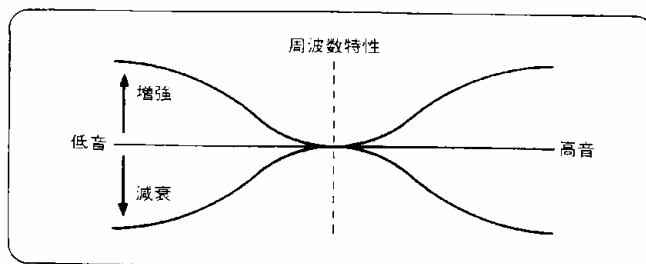
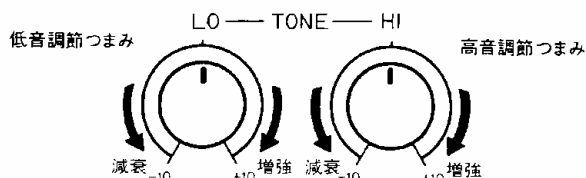


音質調節

音質調節つまみは低音、高音とも、中央クリック位置がフラットで右に回すと増強され、左に回すと減衰されます。

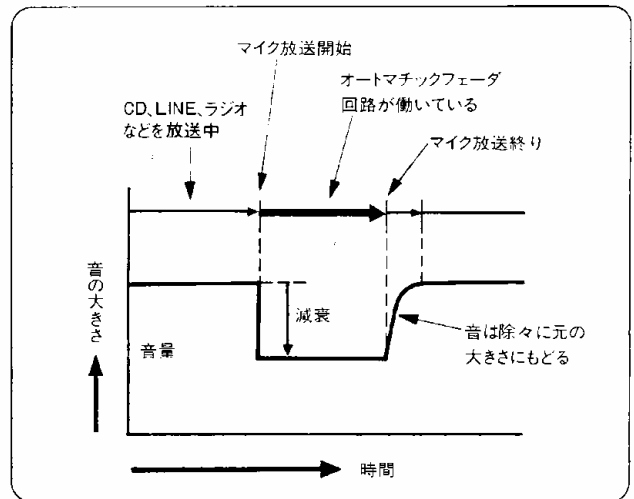
- 使用するスピーカや部屋、用途により聞きやすい音に調節してご使用ください。

- (1) キンキンした音で耳ざわりなときは高音を減衰させ低音をやや増強させると聞きやすくなります。
- (2) 低音がもごついてははっきりと聞き取りにくいときには低音を減衰させ高音をやや増強させると聞きやすくなります。
- (3) 音楽をお聞きになるときは低音高音ともにやや増強させると迫力のある音になります。



オートマチックフェーダ回路について

マイク1、ライン2の回路にはオートマチックフェーダ回路がついています。マイク1のマイクで放送するとオートマチックフェーダ回路が働き、CD、ライン1、3、4、ラジオチューナの音量が自動的に低下し、通常の案内放送などで、いちいち音量をさげる手間が省けて便利です。CD、ライン1,3,4,ラジオ以外の音量は下がりません。マイク放送が終わると自動的に元の音量にもどります。



オートマチックフェーダ回路の調節のしかた

音量の下がり具合は開閉パネルの内側のフェーダ調節つまみで調節します。

反時計方向一杯に回すと音量の下がり具合は最大となり、時計方向一杯に回すと音量はさがりません。

適切な音量にセットしてご使用ください。

(出荷時は時計方向一杯にセットされています)

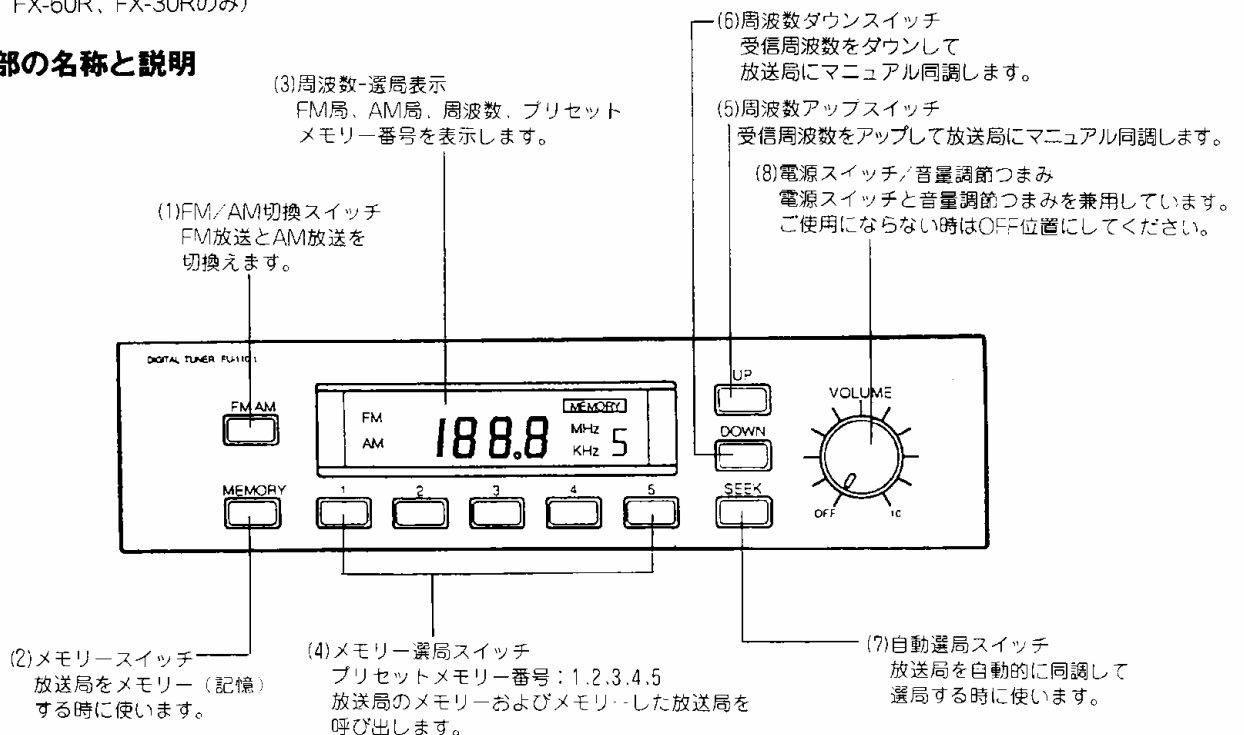


音量のさがり具合が FADER 音量はさがりません
最大になります

ラジオ受信のしかた

(FX-120R、FX-60R、FX-30Rのみ)

各部の名称と説明



使い方

アンプ本体をP. 5の使い方に従って電源スイッチを「入」にし、放送できる状態にしてください。

1. 電源スイッチ / 音量調節つまみ(8)を時計方向に少し回してください。カチッという音がしてラジオチューナー部の電源が入り周波数-選局表示器(3)が表示します。
2. FM/AM切換スイッチ(1)でご希望のバンドに切換てください。
3. ラジオ音声を聞きながら、ご希望の放送局に合わせて選局してください。
 - ①マニュアル選局の場合
周波数アップ / ダウンスイッチ (5)(6) で選局してください。 0.5秒以上押し続けると早送りになり、離すと止まります。
 - ②自動選局の場合
自動選局スイッチ(7)で受信放送局を合わせてください。
受信周波数は低いほうから高いほうへ選局し、ラジオ放送が受信されると停止します。
4. 音量調節つまみ(8)を回して音量を調節してください。
5. ご使用にならない場合は、電源スイッチ / 音量調節つまみ(8)を反時計方向にカチッという音がするまで回してラジオチューナー部の電源を「OFF」にしてください。

放送局をメモリーするには

1. ご希望の放送局に合わせてください。
2. メモリースイッチ(2)を押すと、表示器(3)に **MEMORY** が約 4 秒間表示されます。
3. **MEMORY** が表示されている間に、メモリー選局スイッチ(4)のプリセットメモリー番号を押すと表示器にはその番号が表示され、ご希望の放送局がメモリー（記憶）されます。
4. 一度プリセットメモリーしておく、メモリー選局スイッチ(4)でダイレクトに放送局を選択して聞くことが出来ます。

*メモリーされる局は、FM/AMの各バンド5局ずつで合計10局までメモリー出来ます。

*一度メモリーしたプリセットメモリー番号に同じバンドの別の放送局をメモリーすると前のメモリーは消えます。

注意：

このラジオチューナーはメモリー保持用電池を内蔵していて、約2週間プリセットメモリーの内容を記憶しています。

電池は充電式で、アンプ本体機器の電源スイッチがオンになっていれば、自動的に充電されますが、機器の設置当初や機器を長期間ご使用にならない時は、プリセットメモリーが消えることがあります。

アンテナの接続方法

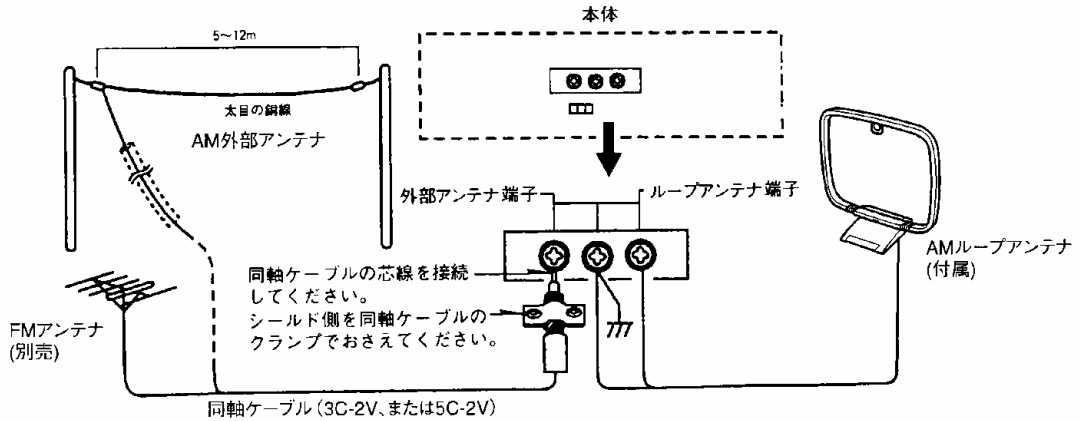
●FM放送を受信するとき

- ・FMアンテナを外部アンテナ端子に接続してください。接続線は必ず同軸ケーブルを使用してください。
- ・FM放送を良好に受信していただくために、市販のFM専用アンテナを設置されることをお勧めします。

●AM放送を受信するとき

- ・付属のAMループアンテナの接続端子を本機のループアンテナ接続端子に接続してください。
- ・AMループアンテナで十分に受信できない場合はAM外部アンテナを設置してください。接続線は必ず同軸ケーブルを使用してください。（下図参照）

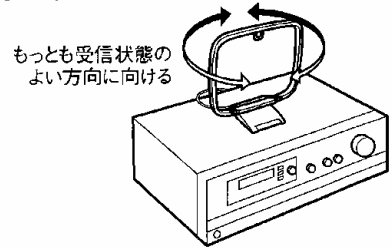
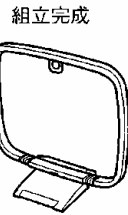
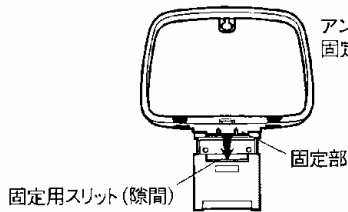
注) AMループアンテナはAM外部アンテナを接続される場合でも接続しておいてください。



AMループアンテナの組み立てかた

●ループアンテナを組み立て、機器に接続してください。アンテナをもっとも受信状態のよい方向に向けてください。

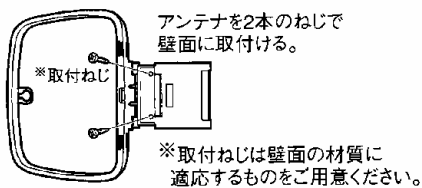
- ① ループアンテナを組み立てる。



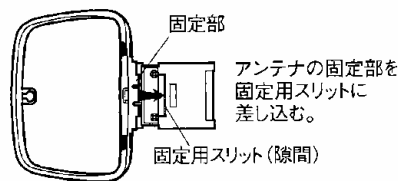
AMループアンテナの壁面取付方法

●機器がラックなどに設置される場合は、AMループアンテナを機器の近くの受信状態の良い場所に設置してください。

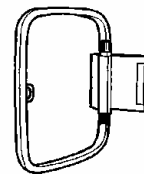
- ① アンテナを2本のねじで壁面に取付ける。



- ② ループアンテナを垂直に固定する。

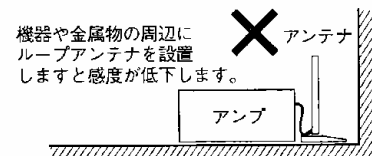
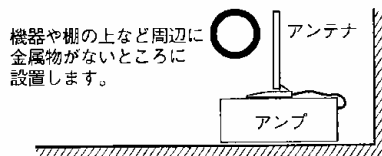


取付完成

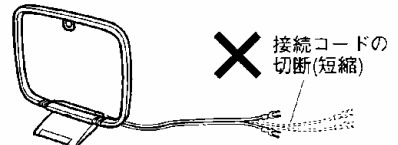
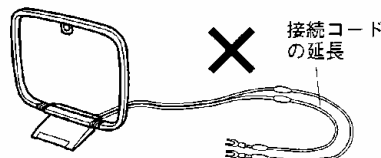


AMループアンテナの設置上のご注意

ループアンテナを機器または金属物の周辺に設置しますと感度が低下します。ループアンテナは機器または金属物から離して設置してください。



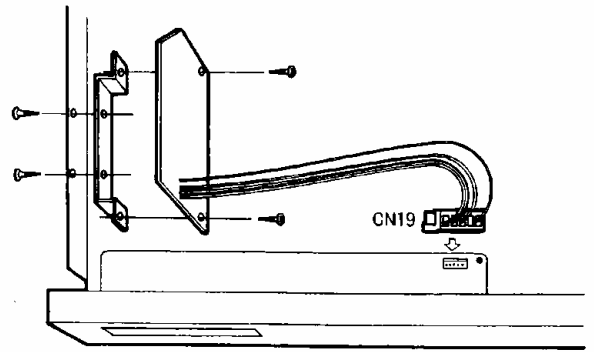
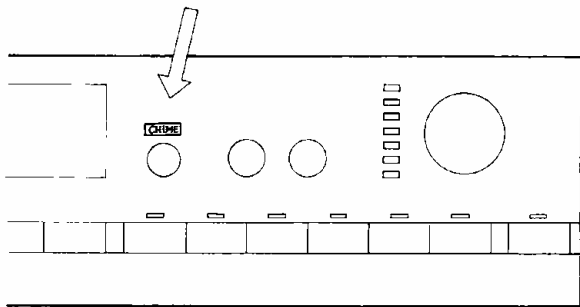
ループアンテナの接続コードは切断したり、延長したりしないでください。また、付属のループアンテナ以外のアンテナは使用しないでください。十分な感度を得られません。



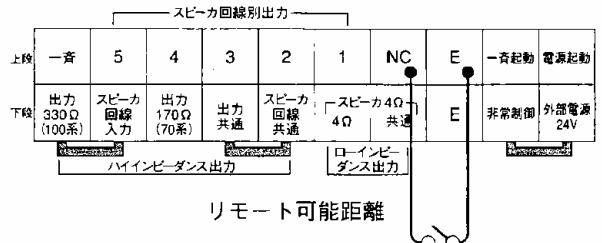
エレクトロチャイムユニット EC-24(別売)の取り付け方法

必ず電源プラグをACコンセントより抜き取ってください。
本体のねじを7本はずして、カバーを取り外してください。

- ①エレクトロチャイムユニットEC-24に付属している取り付け金具にチャイム本体をチャイム付属のねじ2本で取り付けてください。
- ②チャイム本体を取り付けた金具をシャーシにチャイム付属のねじ2本で取り付け、5Pコネクタを矢印のように差し込んでください
- ③エレクトロチャイムユニットに付属のシール「CHIME」をチャイムスイッチの上に貼り付けてください。



エレクトロチャイムユニット(別売)を組込んだ場合、出力端子部の「NC」がチャイムの外部リモート端子としてお使いいただけます。アンプ動作時に「NC」と「E」をメイクするとチャイム音が放送されます。(アンプの起動と同時にメイクするとチャイムは正常に動作しません。)



線の太さφ1.0mmで200m以下にしてください。

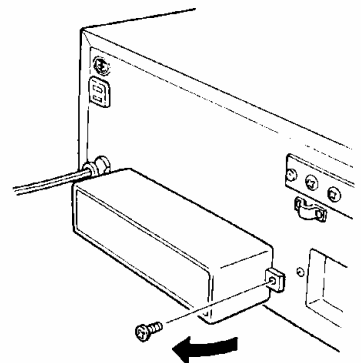
スピーカの接続方法

端子カバーのはずし方

端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

また接続後は必ず端子カバーを取り付けてください。

右側のねじを取り左方向にカバーをはずしてください。



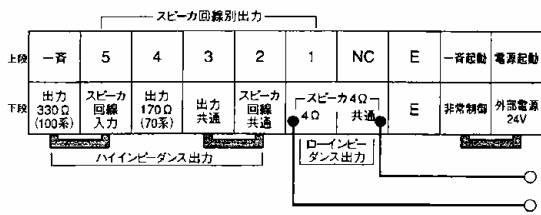
○使用するスピーカの種類の

ローインピーダンスの場合

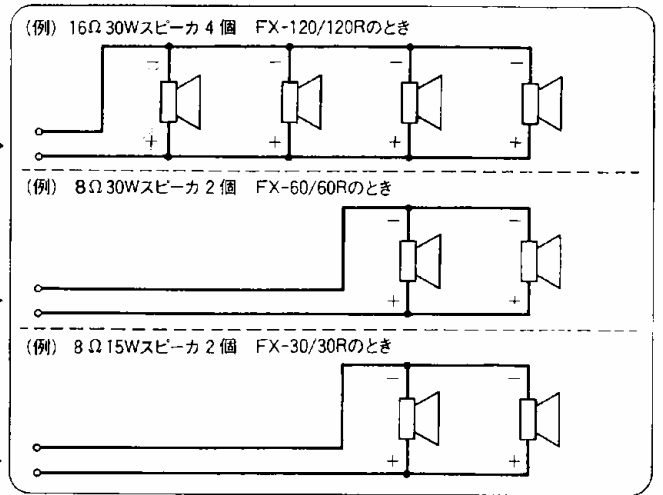
アンプ品番(定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
FX-120/120R(120W)	4Ω以上	120W(4Ω)以上
FX-60/60R(60W)		60W(4Ω)以上
FX-30/30R(30W)		30W(4Ω)以上

特に/
ご注意を……

- ローインピーダンススピーカとハイインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。
- 多数のスピーカを接続するときは、全スピーカの合成インピーダンスが4Ω以下にならないようにしてください。
- 使用するスピーカの定格入力、スピーカ1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。
- ローインピーダンススピーカを接続したときは一斉放送になります。(スピーカ回線選択スイッチは使用できません。)



ショートバーは接続しておいてください。
 (ただし、非常制御する場合は非常制御端子について) の項目に従って配線してください。



ハイインピーダンスの場合

アンプ品番 (定格出力)	ハイインピーダンス	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
FX-120 (120W) 120R	100系	83Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が120W以内
	70系	42Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が240W以内
FX-60 (60W) 60R	100系	170Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が60W以内
	70系	83Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が120W以内
FX-30 (30W) 30R	100系	330Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が30W以内
	70系	170Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が60W以内

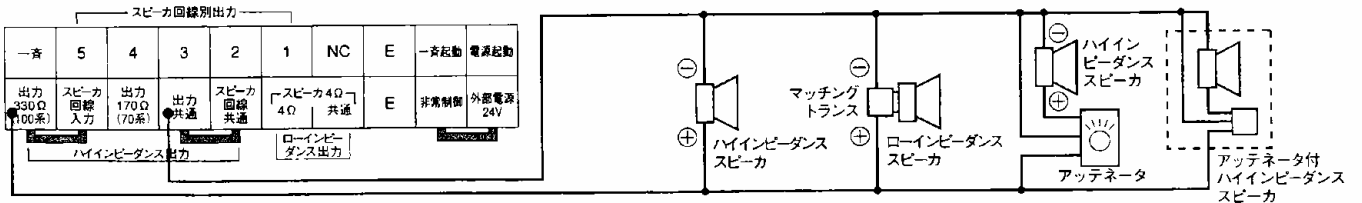
ご注意

ハイインピーダンススピーカとローインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。
 ハイインピーダンスのとき100系と70系を同時に使用することはできません。

特に!

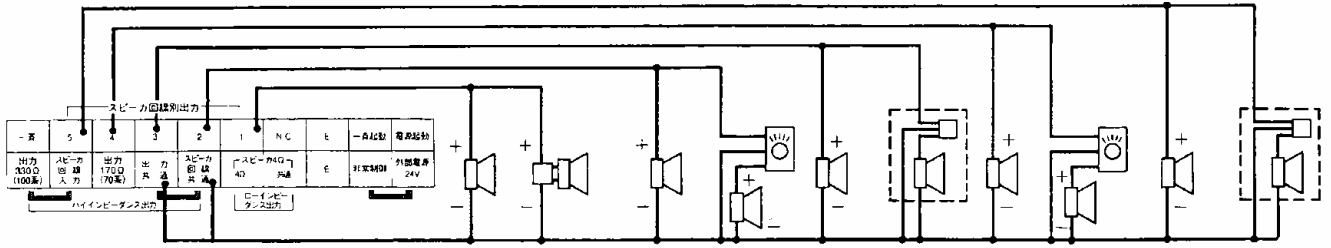
- スピーカの合成インピーダンスがアンプの適合負荷インピーダンスより小さくならないようにしてください。
- スピーカの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
- ハイインピーダンススピーカとローインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。

①1系統で放送する場合 (スピーカ回線選択スイッチを使用しない場合)



ショートバーは接続しておいてください。
 (ただし、非常制御する場合は非常制御端子について) の項目に従って配線してください。

②系統別に放送する場合(2線式の場合)



共通端子としてはどちらかに接続するだけで十分です。

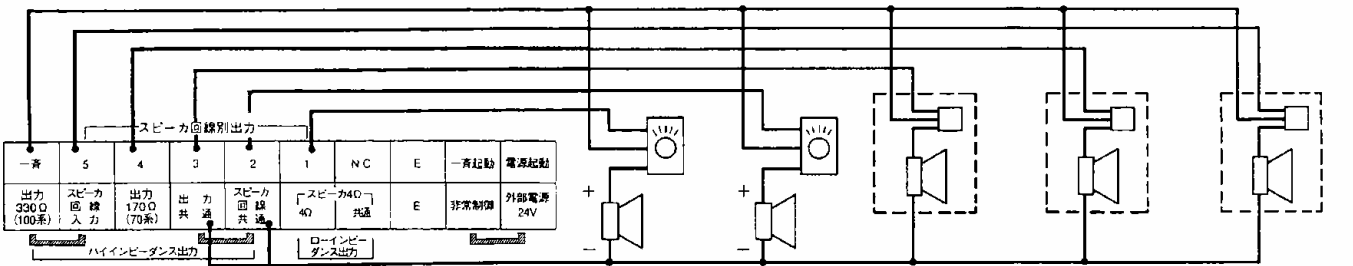
ショートバーは接続しておいてください。

(ただし、非常制御する場合は非常制御端子についての項目に従って配線してください。)

○各回線選択スイッチを押して放送される場合はアッテネータの音量が0位置の場合はそのスピーカからの放送はできません。

③系統別に放送する場合(3線式の場合)

アッテネータなしでは使用できません。



共通端子としてはどちらかに接続するだけで十分です。

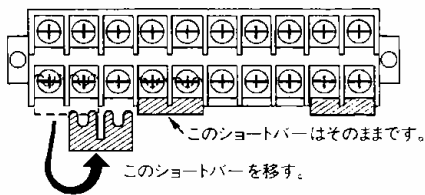
ショートバーは接続しておいてください。

(ただし、非常制御する場合は非常制御端子についての項目に従って配線してください。)

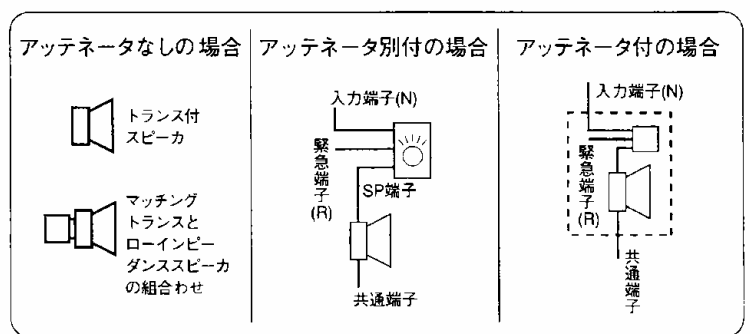
○各回線選択スイッチを押して放送される場合はアッテネータの音量が0位置の場合はそのスピーカからの放送はできません。

○一斉スイッチを押せばアッテネータの音量が0位置であっても放送できます。

70系出力の場合



出力100系スピーカ回線入力間のショートバーをスピーカ回線入力出力70系間に移し替えてください。



スピーカ回線の太さと配線可能距離のめやす

線の太さ			φ0.9	φ1.0	φ1.2	φ1.6	φ2.0	φ2.6
ローインピーダンス(4Ω)			7m	10m	13m	23m	40m	60m
ハイインピーダンススピーカ	FX-30/30R	330Ω	580m	720m	1.1km	2km	3km	5.2km
	FX-60/60R	170Ω	290m	360m	560m	1km	1.5km	2.6km
	FX-120/120R	83Ω	145m	180m	280m	500m	770m	1.3km
		42Ω	—	90m	140m	250m	380m	650m

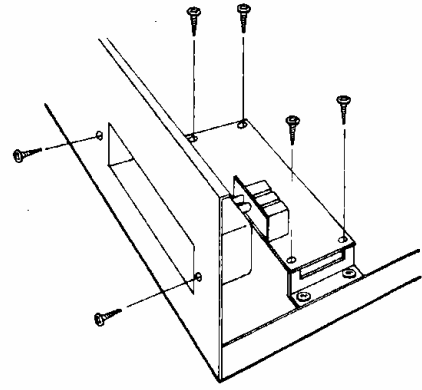
この表は線路抵抗がアンプの負荷インピーダンスの10%になる距離のめやすです。

調整及び設定変更のしかた

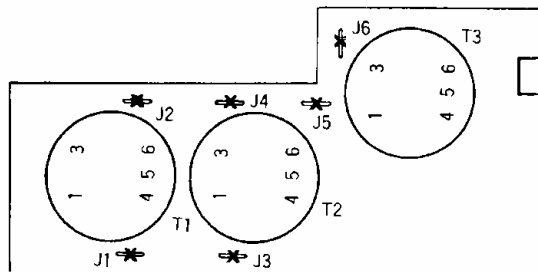
絶縁トランス・平衡トランスLT-16(別売)の 取り付け方法

必ず電源プラグをACコンセントより抜き取ってください。
本体のカバー止めねじ7本を取り、カバーを取り外してく
ださい。

- ①後面のねじ2本と基板を止めているねじ4本を取り、基
板を外します。
- ②×印のジャンパー線を切断し、トランスを基板にハンダ
付けしてください。
(トランスの向きを間違わないように注意してください。)

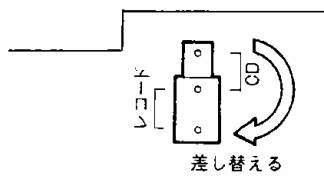


トランスの取付箇所と切断箇所は次の通りです。
マイク2はT1に取付けてJ1,2を切断
マイク3はT2に取付けてJ3,4を切断
ライン2はT3に取付けてJ5,6を切断



CD入力をレコード入力に変更する方法

基板上のジャンパーピンJP1を「CD」から「レコード」
にさしかえます。

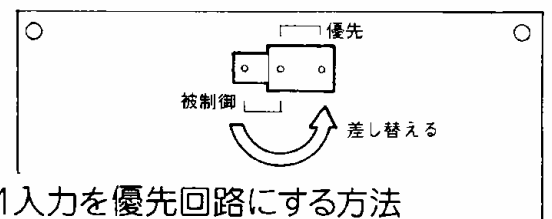
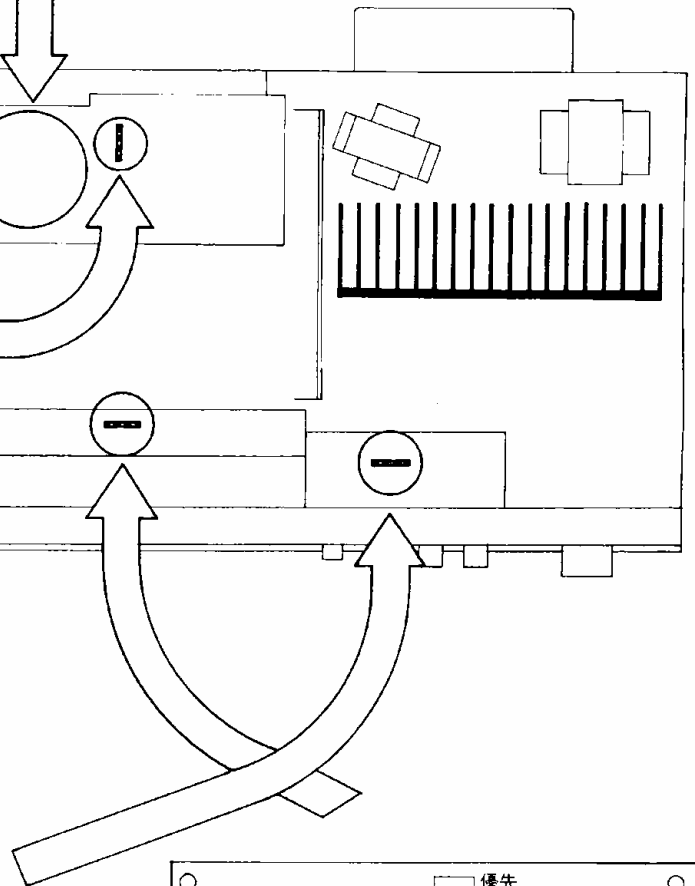
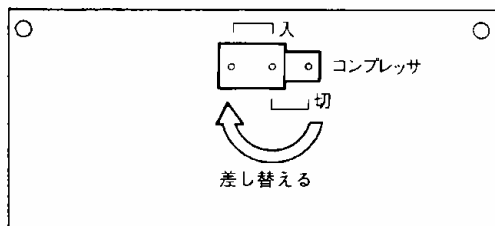


マイクコンプレッサ回路を「入」にする方法

マイク1,2,3及びライン2には、コンプレッサ回路がついて
います。

マイク放送がひずみだす少し前から信号を圧縮してひずみ
にくくする回路です。

出荷時は「切」にセットされています。「入」にするには基板
上のジャンパーピンJP2を「切」から「入」にさしかえます。



ライン1入力を優先回路にする方法

ライン1入力は出荷時にはマイク放送時に音量が自動的
に下がるようにセットされていますが、マイク回路と同
様、優先回路にする(ライン1に信号が入ったときCD
等の音量が自動的に下がるようにする)ことができます。
基板上のジャンパーピンJP3を「被制御」から「優先」にさ
しかえます。

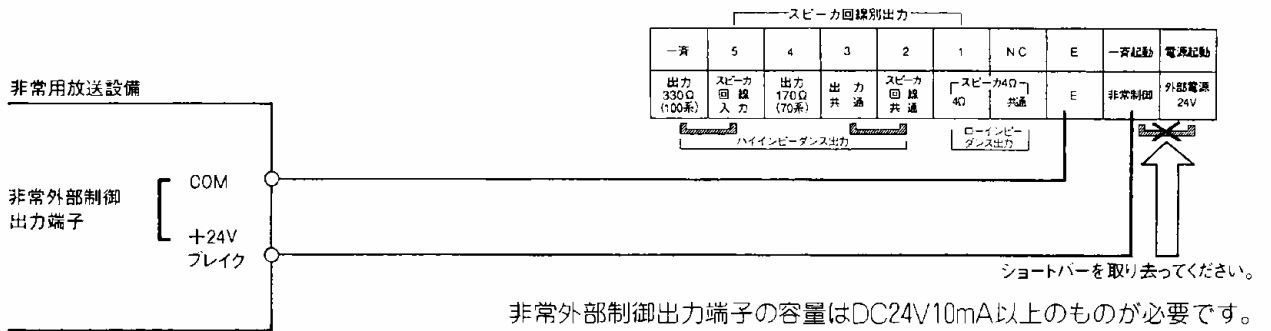
非常制御端子について

非常用放送設備からの信号(常時DC24V受電、非常時断または非常時無電圧ブレイク接点)で非常時に本機の電源を「切」にすることができます。

接続のしかた

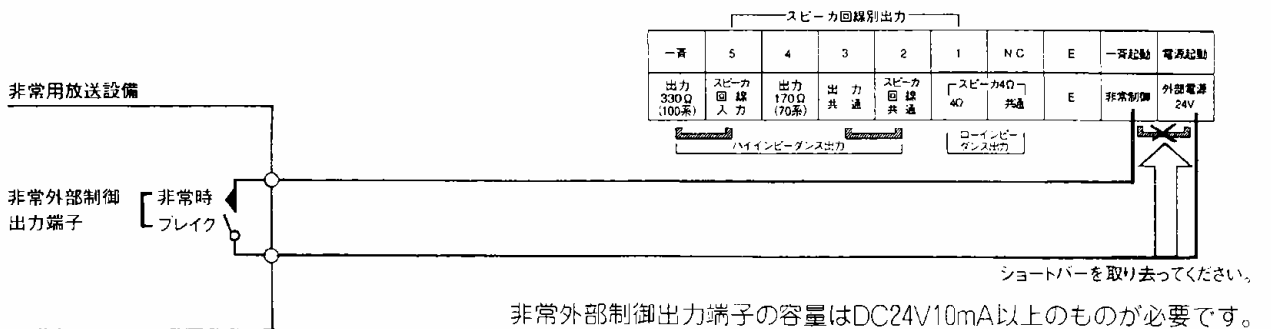
常時DC24V受電、非常時断の場合

- ①出力端子部の「外部電源」と「非常制御」間のショートバーを取り去ります。
- ②非常用放送設備の非常外部制御出力端子の24Vブレイク端子から本機の「非常制御」に、COM(共通,E)端子から、本機の「E」端子に接続してください。



非常時無電圧ブレイク接点の場合

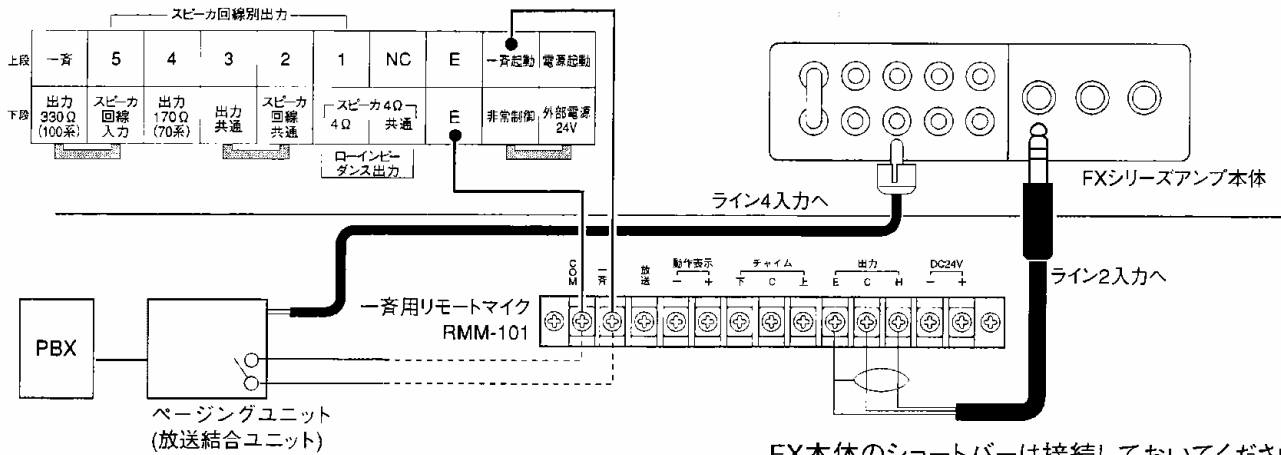
- ①出力端子部の「外部電源」と「非常制御」間のショートバーを取り去ります。
- ②非常用放送設備の非常外部制御出力端子から本機の「外部電源」と「非常制御」に接続してください。



リモートマイクRMM-101及びページングユニットとの接続のしかた

○図のように配線してください。

○RMM-101の各スイッチを入れますと、FXシリーズアンプの電源スイッチに関係なく動作します。また2線式、3線式スピーカ回線選択スイッチの入/切状態に関係なく一斉放送されます。



FX本体のショートバーは接続しておいてください。
(ただし、非常制御する場合は非常制御端子について
の項目に従って配線してください。)

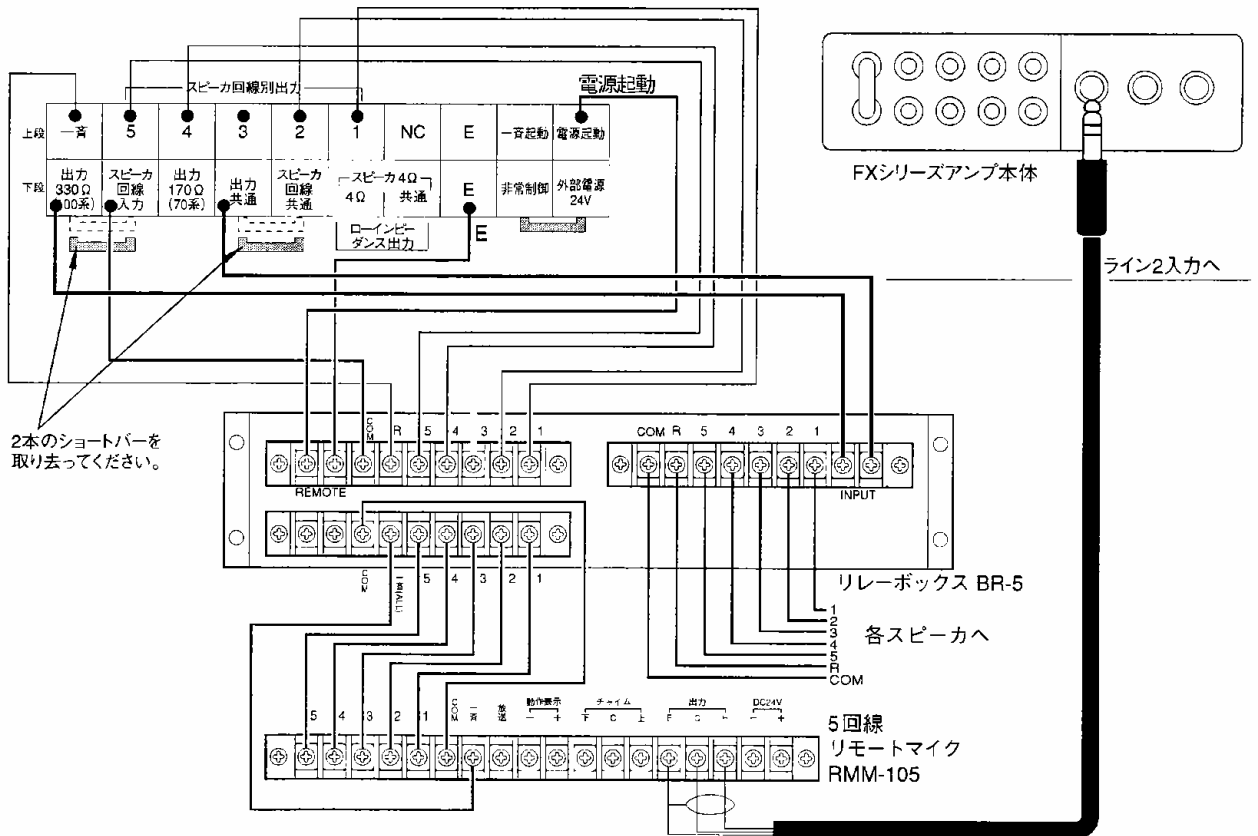
5回線リモートマイクRMM-105及びリレーボックスBR-5との接続のしかた

○図のように配線してください。

○RMM-105の回線選択スイッチ1~5、及び一斉スイッチを入れますと、FXシリーズアンプの電源スイッチに関係なく動作します。

○RMM-105より放送系統はBR-5の動作表示灯により確認できます。

○各スピーカ線の配線はBR-5よりおこなってください。FXシリーズアンプよりの直接配線はできません。

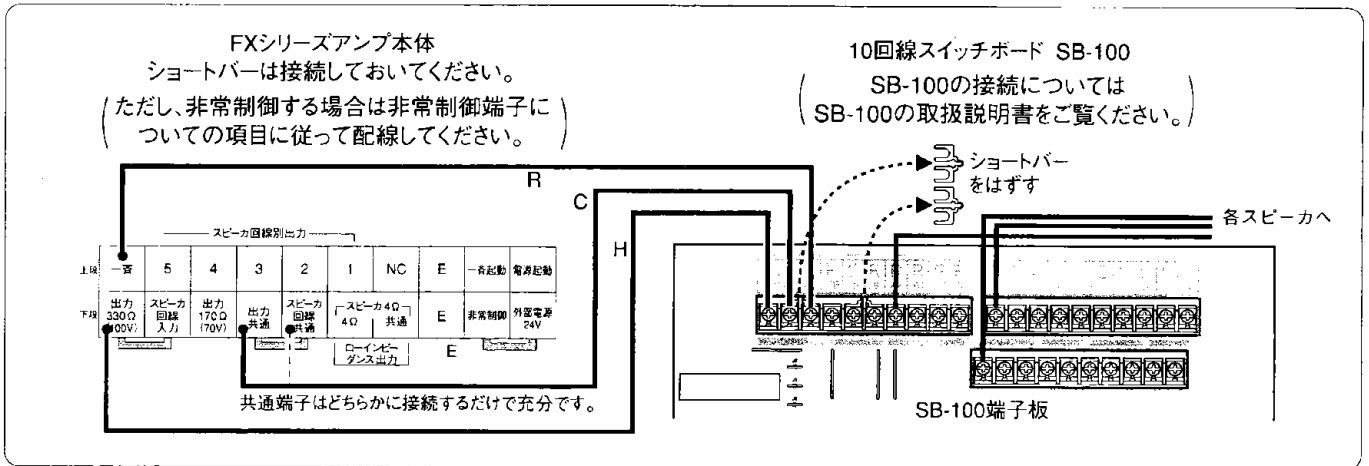


2本のショートバーを
取り去ってください。

非常制御のショートバーは接続しておいてください。
(ただし、非常制御する場合は非常制御端子について
の項目に従って配線してください。)

10回線スイッチボードSB-100との接続のしかた

○下図のように配線してください。



ノイズ対策について 外来ノイズの影響をうけないために配線については次のような点に注意してください。

マイクケーブルは必ずシールド線を使用します。

◆マイクケーブル等の入力線のノイズ対策
調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。

スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。

◆スピーカー線のノイズ対策

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルタを入れてください。

◆電源のとりかた

サービスコンセントには、蛍光灯などの音響製品以外の機器を接続しないでください。
(容量AC100V、100W以内)

◆サービスコンセントの使いかた

本機の近傍で携帯電話を使用しますと、雑音発生の原因になります。本機使用中に携帯電話を使用する場合は充分ご注意ください。

◆携帯電話の使用について

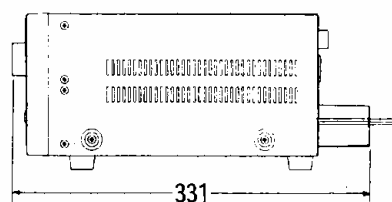
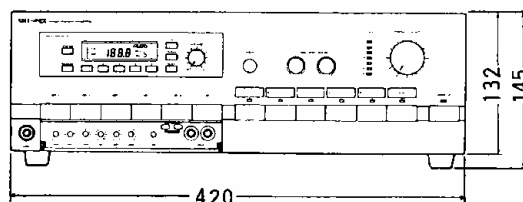
定格

※ 電気用品安全法に基づく

品番	FX-30R	FX-30	FX-60R	FX-60	FX-120R	FX-120
使用電源	AC100V 50/60Hz					
消費電力	※ 32W		※ 49W		※ 95W	
消費電流	AC 1.1A		AC 1.9A		AC 3.7A	
定格出力	30W		60W		120W	
出力負荷インピーダンス	330Ω (100系) 170Ω (70系)		170Ω (100系) 83Ω (70系)		83Ω (100系) 42Ω (70系)	
ライン出力	4Ω (4~16Ωスピーカ使用可能) 不平衡					
録音出力	-2dBV 10kΩ 不平衡					
増設出力	-2dBV 10kΩ 不平衡					
全高調波ひずみ率	0.5%以下(ライン1入力 1kHz 定格出力-10dB)					
周波数特性	50Hz~20kHz ±3dB(ライン1入力 定格出力-10dB)					
音質調節	低音 100Hzに於いて±10dB(1kHz基準) 高音 10kHzに於いて±10dB(1kHz基準)					
入力感度及びインピーダンス	マイク1,2,3 -72dBV 600Ω 電子平衡 音量調節器付(マイク2,3絶縁トランス取付可能) C D -16dBV 50kΩ 不平衡 音量調節器付 ライン1 -22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ライン2 -2dBV 600Ω 不平衡 音量調節器付(平衡トランス取付可能) ライン3 -22dBV 10kΩ 不平衡 ライン4 -22dBV 10kΩ 不平衡 アンプ入力 -2dBV 10kΩ 不平衡					
信号対雑音比	60dB以上 アンプ入力 85dB以上					
スピーカ回線入力	5回線一斉付入力容量125V3A以下 回線別表示灯(アンバー)及び一斉表示灯(赤)付					
使用温度範囲	-10℃~+55℃					
寸法	幅 420mm 高さ 145mm 奥行 331mm					
質量	約6.3kg	約5.9kg	約6.6kg	約6.2kg	約7.4kg	約7.0kg
付属品	ショートバー3、中継ピンプラグ1、回線表示紙1、取扱説明書(保証書付)1、 FX-30R・FX-60R・FX-120Rの付属品：ループアンテナ1					

ラジオ部 音量調節器付		FX-30R	FX-60R	FX-120R
受信周波数	AM: 531 kHz~1602 kHz		FM: 76.0MHz~90.0MHz	
アンテナ入力	AM: ループアンテナ ローインピーダンス 不平衡		FM: 75Ω 不平衡	
実用感度	AM: 30dBμV		FM: 12dBμV	

外観寸法図



連絡先のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。
販売店に修理を依頼する場合は下記の項目をお確かめください。

品名 品番 お買い上げ日 故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

ご転居されたり、ご贈呈品などで販売店に修理のご相談ができない場合は最寄りの下記弊社営業所にご相談ください。

札幌営業所	〒064-0811	札幌市中央区南1条西 10-2-17	TEL.(011)511-5505(代)	FAX.(011)511-5529
釧路営業所	〒085-0025	釧路市宝町 3-8	TEL.(0154)25-3156(代)	FAX.(0154)25-6261
仙台営業所	〒984-0015	仙台市若林区卸町 3-6-11	TEL.(022)232-1295(代)	FAX.(022)232-1297
東京営業所	〒110-0008	東京都台東区池之端 2-3-17	TEL.(03)3821-3721(代)	FAX.(03)3827-5423
新潟営業所	〒950-0922	新潟市山二ツ 4-6-19	TEL.(025)287-3611(代)	FAX.(025)287-3613
金沢営業所	〒920-0362	金沢市古府 1-190	TEL.(076)240-4577(代)	FAX.(076)240-6737
静岡営業所	〒422-8037	静岡市下島 152-5	TEL.(054)238-1446(代)	FAX.(054)238-1453
名古屋営業所	〒466-0051	名古屋市昭和区御器所 1-3-29	TEL.(052)871-1671(代)	FAX.(052)872-4128
大阪営業所	〒556-0005	大阪市浪速区日本橋 4-2-7	TEL.(06)6632-2855(代)	FAX.(06)6644-1624
岡山エリア連絡先			TEL.(086)244-2317(代)	FAX.(086)244-4461
高松営業所	〒760-0079	高松市松縄町 525-1-203	TEL.(087)868-1181(代)	FAX.(087)868-1331
広島営業所	〒730-0016	広島市中区幟町 5-29	TEL.(082)222-5511(代)	FAX.(082)222-5513
福岡営業所	〒810-0074	福岡市中央区大手門 3-9-15	TEL.(092)721-5000(代)	FAX.(092)721-5089
鹿児島営業所	〒890-0052	鹿児島市上之園町 8-12	TEL.(099)250-0220(代)	FAX.(099)257-3327

ユニペックス株式会社

本社/営業本部 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近 3-6
お客様相談窓口 (CS課) TEL.(072)855-3334